

令和2年度京田辺市社会福祉協議会事業報告書

新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず、4月には全国に緊急事態宣言が発令され、学校の休校や不要不急の外出自粛、多くの人が集まる施設の使用制限など、国民生活をはじめ社会経済活動に甚大な影響を与えました。

社会福祉協議会におきましても、昨年度末から引き続いて、本会が行う多くの事業等の中止や延期を余儀なくされる事態は変わらず、社会福祉センターも4月から2か月間は閉館し時間短縮での貸館や昨年に続いて社会福祉センターふれあいまつりも開催することができませんでした。

また、例年6月7月を社協会員募集月間として、区・自治会を通じて依頼しておりましたが、感染症の影響で遅れたり、昭和54年から実施してきたチャリティーバザーもはじめて中止し共同募金運動による財源も減少するなど本会の運営並びに福祉事業の推進に対して厳しい状況が続いています。

在宅サービス事業では、一日リフレッシュ事業や介護の広場などは中止しましたが、特に新型コロナウイルス感染症への対応方針に基づき、感染予防対策を徹底して、事業所から1人の感染者も出さず、介護保険事業（居宅介護・訪問介護・通所介護）を実施することができました。

本年度は新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、感染拡大防止に配慮して、これまで行ってきた福祉活動やボランティア活動などを段階的に、そして創意工夫を図りながらの再開・実施、新たな地域福祉活動の展開に向けて考えさせられる1年となりました。

本会の運営並びに社会福祉事業の推進にご理解、ご協力いただきました多くの皆様に感謝申し上げます、以下のとおり報告します。

1 社協組織の基盤整備と関係団体との連携強化

(1) 社協基盤の強化と組織活動の充実

① 社協会員加入状況（※カッコ内前年度）

6、7月の2ヶ月間を社協会員募集月間とし、各分会において地域役員の協力ならびに市内の各福祉施設や団体へ会員の募集を行いました。

会員数：7, 217名（7, 941名）

内訳 普通会員：6, 474名（7, 127名）

特別会員：714名（788名）

賛助会員：29名（26名）

その他、施設会員：13施設（13施設）

② 支部、分会組織の活動の推進と助成金の交付

小地域福祉活動の基盤と組織的活動の推進をはかるために活動費を交付しました。

・1支部（30, 000円）、24分会（423, 476円）

(2) 財源の確保と造成（※カッコ内前年度）

① 会費総額：4, 381, 200円（4, 737, 900円）

② 寄付金総額：1, 401, 453円（746, 950円）

一般寄付（個人、団体、分会）35件の寄付を賜りました。

③ 第41回チャリティーバザーの開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

(3) 共同募金事業（※カッコ内前年度）

① 赤い羽根共同募金

区・自治会（分会）や市内企業の協力を得て、市内での募金運動を展開しました。

・募金総額：3,701,516円（4,280,478円）

内訳 戸別募金：3,350,722円（3,779,627円）

企業募金：232,400円（247,600円）

その他：126,694円（253,251円）

令和元年度の募金額をもとに京都府共同募金会からの配分金により各種事業（当事者団体や福祉協力校への助成、社協だよりの発行、弁護士相談委託料、喫茶りあんの運営等）を実施しました。

② 歳末たすけあい募金

「みんなでささえあうあったかい地域づくり」をスローガンに12月1日から募金運動を実施し、集められた募金は、京田辺市共同募金委員会・審査委員会において審議し、年末、年始にかけて次のとおり配分しました。

・募金総額：3,551,966円（4,187,753円）

内訳 戸別募金：3,190,213円（3,979,821円）

その他：361,753円（207,932円）

配分内容	金額	備考
見舞金(661名)	1,983,000	(見舞金) 身体障害者手帳保持者(1.2級):363名 療育手帳保持者(A.B):171名 ひとり親世帯:62名 精神障害者(1.2級):65名 (おせち料理) 要介護認定1以上で70歳以上のひとり暮らし高齢者と要介護認定1以上の80歳以上の高齢者世帯等
おせち料理(165名)	528,000	
公募による活動補助(6件)	90,000	
社協カレンダー(3000部)	516,000	
子育て支援事業などの活動備品の整備	103,620	
非常食など災害支援物資の整備	79,170	
事務費	100,000	
次年度繰越金	152,176	
合計	3,551,966	

(4) 広報、啓発活動

① 社協だよりの発行

「京田辺市社協だより（第169号～第172号）」年4回（7月、9月、12月、3月）発行。ボランティアや福祉情報の掲載して、社協活動への理解と意識の高揚、参加促進をはかりました。

② ホームページによる情報の提供

本会の活動やボランティアグループ等の活動を紹介、啓発するためのホームページを適時更新しました。

(5) 社会福祉センターの指定管理（※カッコ内前年度）

① 社会福祉センターの指定管理

・開館日数：290日（339日）

新型コロナウイルス感染症拡大により4、5月閉館。また令和3年1月16日から3月7日まで夜間の貸し出しを停止した。

・年間利用件数：2,578件（3,145件）

・年間利用者数：26,335名（45,155名）

② 社会適応訓練事業所「喫茶りあん」の運営

精神障害のある方の社会参加や就労支援を進めるために事業所で働くことを通して社会生活適応のための場として9年が経過しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、営業時間を短縮（11時～13時または14時）して運営を行った。

・営業日数：136日（174日）

・年間利用者数：3,235名（5,524名）

○りあんへいこっ！プロジェクト（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

③ 「いつでもだれでも」の開設（年13回）（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため9回中止）

乳幼児の親子の子育てを支援するために、親子同士の交流や悩みなどを意見交換し合える居場所づくりにと、原則月2回第1・3水曜日に講習室を開放しました。

・年間参加者（親子、学生ボランティアなど）：239名

④ 第4回社会福祉センターふれあいまつり（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

(6) 会務の運営及び運営組織の見直し

① 理事会 3回

② 評議員会 2回

③ 監事会 1回

④ 専門委員会等

・ふれあい福祉委員会 3回

・在宅サービス委員会 2回

・ボランティアセンター運営委員会 2回

⑤ 共同募金運営委員会・分会長会 3回

(7) 役職員研修会等への参加

① ふれあい福祉課関連

市町村社協連合会総会・役職員セミナー、府社協会長会議・事務局長会議・法人役員施設長等運営管理職員研修、地域福祉ラウンドテーブル、山城北西エリア事務局長会議、福祉サービス利用援助事業生活支援員新任研修・専門員新任研修・ブロック別会議検討会、山城北中部広域社協合同会議、ボランティア入りロデザインプロジェクト会議、市町村社協ボランティア担当者会議、市町村社協課題別研修Ⅰ・Ⅱ、市町村社協災害ボランティア担当者会議、京都府災害ボランティアセンター全体研修会・初動支援チームフ

- フォローアップ研修・防災人養成講座、近畿地域福祉学会奈良大会、府共募評議員会
- ② 在宅サービス課・ホームヘルプセンター関連
福祉職場における「傾聴」の基礎を実習で学ぶセミナー
 - ③ 在宅サービス課・ケアプランセンター関連
福祉サービス苦情解決事業セミナー、社会福祉協議会活動全国会議地域福祉課題別研修Ⅱ、社会福祉専門セミナーⅡ～伝えるはトレーニングできる!アサーティブ研修
 - ④ 在宅サービス課・常磐苑デイサービスセンター関連 なし

2 小地域福祉活動の推進と普及

(1) I♥京田辺ふれあいワークショップ (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

区・自治会長をはじめ、民生委員や社協役員等に社協の福祉活動についてのアンケート調査を実施しました。結果(回答数209件)については、今後のワークショップや研修会等に活用していきます。

(2) 地域ひとつなぎ事業

高齢者の孤独や孤立を防ぐことを目的に、住民や地域組織主体で展開される戸別の訪問活動への支援をする「地域ひとつなぎ事業」として助成金を交付。

- ・助成団体(3団体):一休ヶ丘分会、南山西分会、東区第4ブロック安全安心見守り隊

(3) ふれあいサロン活動 (※カッコ内前年度)

地域(区・自治会(分会))において、高齢者の地域参加の促進や見守り、子育て支援、住民同士の交流などを目的とした活動に対し支援を行いました。

- ・活動助成金交付額:723,100円(1,864,910円)
- ・交付を受けた分会団体等数:17件(43件)

分会等:三野、大住ヶ丘1丁目、3丁目、山手南、花住坂、草内、飯岡、同志社住宅、多々羅、普賢寺、大住ヶ丘(民児協)、三野(老人会)

その他:東区第4ブロック安全安心見守り隊、ここにこ茶話会、打田ファミリー'S、一町田グランドゴルフクラブ、秋にコスモスを咲かせよう実行委員会

(4) 令和2年度きょうと地域福祉活動実践交流会

令和3年2月9日(火)、今年度は市町村社協連合会の事務局が主体となり、地域において「つながり」の必要性を再考するとともに、新たな「つながり」を生み出すために、試行錯誤しながら取り組んでいくプロセスを共有し、今後の府内でのWITHコロナ時代の地域福祉のあり方を探るZOOM交流会が行われました。

○基調講演『なぜ地域福祉で「つながり」が必要なのか?コロナ禍で改めて考える』

講師:山下 憲昭氏(大谷大学教授)

○実践報告

- ・『IT技術を利用した地域福祉活動の取組とその可能性』(京丹波町社協)
- ・『地域農園の活用から生まれる住民同士のつながり』(木津川市社協)

(5) 絆ネット構築支援事業

① 地域ネットワーク会議及び地域活動支援

地域ネットワーク会議は、新型コロナウイルス感染予防の観点からほぼ中止となり、地域役員等へ電話やメールを通して聞き取りや情報交換、相談活動を実施した。コロナ禍ではあったが、一部の地域においては、見守りやサロン活動を行う地域もあり、活動への対策ガイドやチェックリスト、啓発物品の配布など地域役員や民生委員等と連携協力して地域活動の支援を行いました。

② 関係機関との連携

地域包括支援センター、消費生活センター、自立支援協議会等関係機関と会議等を通じ、ネットワークづくり、連携の強化に努めました。

- ・地域包括支援センターあんあんと地域ケア会議等（9回）
- ・生活支援コーディネーターとのSCミーティング等（7回）
- ・消費生活支援センターとの担当者会議（3回）
- ・市障害福祉課との協議等（7回）
- ・市高齢者支援課 SOS ネットワーク連携訓練（1回）

③ 企業との連携

地元企業を対象に、地域福祉活動への理解とさりげない見守り活動の協力を依頼やまちづくりサポーター企業の啓発を行った。

- ・「企業活動と福祉をつなげる」ZOOMミニ懇談会の開催（3社）

④ 研修（オンライン会議）等への参加

Webシンポジウム「高齢者の詐欺被害防止に向けた消費者安全確保地域協議会の活用と課題」、「認知症にやさしい異業種連携共同宣言発表会」、「見守りのふくろう隊研修」&地域福祉活動研修会（久御山町絆ネット）生活支援コーディネーター研究協議会、絆ネット連絡会、全社協「コロナ禍での地域活動について」、相談支援包括化推進員等への支援と人材育成事業ブロック研修

3 福祉教育・ボランティア活動の推進

(1) ボランティアセンターの運営

① ボランティア登録と受給調整（※カッコ内前年度）

- ・登録団体：49団体（47団体）
- ・準登録団体：10団体（11団体）
- ・登録者数：1,164名（1,100名）内個人ボランティア87名（87名）
- ・活動回数：536回（1,218回）
- ・活動延べ人数：1,193名（2,553名）

② リフトカー「ふれあい号」及び「やまびこ号」による送迎サービス

- ・利用登録者：76名（82名）
- ・運行回数：665件（613件）
- ・送迎ボランティア：20名（23名）

○安全運転講習会の実施（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

③ ふれあいテレフォンサービス事業の実施

ボランティアグループ「たんぼぼ」10名が、自宅や社会福祉センターのテレフォン室から各対象者に電話による友愛訪問、安否確認を行った。（※カッコ内前年度）

- ・サービス利用者：20名（21名）
- ・サービス回数：336回（408回）
- ・通話延べ時間：2,954分（3,014分）
- 七夕まつりの開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
- テレフォンサービス交流会（同上）
- テレフォンサービス研修会（同上）
- ④ 活動基盤整備事業
 - 活動機材（コピー機、ボランティア室、倉庫）の管理
 - 本会登録ボランティアのボランティア保険への加入（基本Aプラン300円）
- ⑤ 「声の広報ほっと京田辺」「声の京田辺市議会だより」「声の学びの情報誌」の受託
市からの委託を受け、朗読ボランティアサークル「せせらぎ」（CDへの吹き込み）、
点字サークル「すみれ」（点字シールの作成）の協力により作成し、視覚障がい者など希
望者へ送付しました。
 - 「声の広報ほっと京田辺(60分)」は年間22回（30本制作）
 - 「声の京田辺市議会だより(60分)」は年間4回（21本制作）
 - 「声の学びの情報誌(60分)」は年間3回（10本制作）
- ⑥ ボランティア養成講座等の実施
 - 朗読奉仕員養成講座
 - ・開催日：令和2年9月1日（火）～12月1日（火）[全12回]
 - ・講師：朗読ボランティアサークル「せせらぎ」会員 受講者：13名（内修了者11名）
 - 点訳奉仕員養成講座（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
 - 要約筆記奉仕員養成講座（同上）
 - 車イス体験施設ふれあい講座（同上）
 - スマホで動画制作ボランティア講座（同上）
- ⑦ ボランティアグループ活性化促進事業（4グループ）
 - 朗読研修会（朗読ボランティアサークルせせらぎ）
 - ・実施日：令和2年8月5日、26日（水）参加者：5名
 - ・講師：飛鳥井 かがり 氏
 - ・内 容：プロの講師による発声練習や呼吸法、テキストを使っての文章の正しい伝
達法を学び、音訳技術の向上を図りました。
 - 和太鼓入門講座（和太鼓サークル「輪」）
 - ・実施日：令和2年10月7日（水）参加者：19名
 - ・講師：富治林 浩 氏（日本太鼓財団一級公認指導員）
 - ・内 容：和太鼓に親しんでもらうことと施設訪問や地域交流活動へともに参加いた
だける方を増やすことを目的に開催し、参加者には通常の練習と同様の流
れで体験。
 - 健康音楽坐禅会（健康つば愛好会）
 - ・実施日：令和2年10月31日（土）参加者：20名
 - ・講師：三木 麻衣子 氏（ソプラノ歌手）
 - ・内 容：一休寺を会場に、免疫力アップ横隔膜体操やお家でできる簡単座禅、歌と
ギターと朗読のコンサートを行い、グループのPRや市民の健康増進に図

りました。

○朗読研修会（朗読の会“萌え”）

- ・実施日：令和2年9月29日、10月27日、11月24日（火）参加者：9名
- ・講師：前田 綾子 氏
- ・内容：中学校の教科書の小説やエッセーを用いて、文章の捉え方やアクセント、声の出し方など実践に役立つ技術を学びました。

○認知症予防ゲームリーダー養成講座（スペース虹）（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

⑧ 京田辺市フードバンク運営委員会の運営（運営委員月1回開催）

各家庭で余っている食品を収集して、必要とする福祉団体等へお渡しする活動と調整を行いました。また、コープ京田辺や同志社国際中学校等にもフードドライブへの協力と啓発活動を行いました。

⑨ ボランティア活動の啓発と普及

○ボランティアの活動展（3回）

- ・開催日：令和2年12月8日（火）～13日（日）中央図書館ギャラリーかなび
本会に登録するボランティアグループの活動をパネル展示とVTRで紹介・啓発するとともに、ボランティア相談や災害ボランティアセンターの紹介も行った。
（来館者：延べ150名、ボランティアスタッフ：26名）
- ・開催日：令和3年2月9日（火）～14日（日）アルプラザ京田辺店セントラルコート
初めてアルプラザ京田辺店のセントラルコートをお借りして、ボランティアグループの活動の様子を紹介したり、日替わりブースにてPRする場を設けました。
- ・開催日：令和3年3月8日（月）～19日（金）市役所ロビー

⑩ 組織強化事業

○ボランティアグループへの活動補助金の交付

[京田辺市社協からの補助金：647,334円]

- ・助成額：647,334円（22グループ）

今年度より交付方法の見直しを行い「一般助成」「特別助成」の区分を撤廃。2回に分けて募集の受け付けをしました。また新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受けて対面でのヒアリングを中止した。

[京都府社協からの補助金：200,000円]

- ・スタートアップ支援補助金（ほっぷ）：100,000円（3グループ）
- ・ボランティア活動継続支援補助金（すてっぷ）：100,000円（2グループ）

○バス借り上げ補助：申請なし

○ボランティア連絡協議会の活動支援

- ・活動補助金の交付：70,000円
- ・管外研修（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

⑪ TANABE♡PROJECT

学生がボランティア活動や地域の人たちと出会い関わりを持つきっかけづくりに向けて、「同志社大学ボランティア支援室」、「同志社女子大学ボランティア活動支援センター」及び関係機関との調整、検討を行いました。

⑫ 災害ボランティアセンターの運営と体制強化

○災害ボランティア事前登録者の状況（※カッコ内前年度）

- ・事前登録者：個人50名（51名）、4団体150名（6団体179名）
- 京田辺市災害ボランティアセンター設置・運用研修（オンライン研修）
 - ・開催日：令和3年3月11日（木）参加者：7名
 - ・内 容：ZOOMを利用したミーティング・模擬会議（PC3台、スマホ2台）
- 災害ボランティア出前講座（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
- 京田辺市災害ボランティアセンター運営委員会の開催（1回）
- 防災とボランティア週間の取組
 - 令和3年1月15日（金）から21日（木）の間、災害ボランティアセンターについての紹介と事前登録者の募集を啓発した。
- 京田辺市防災講演会への参加
 - ・開催日：令和2年11月25日（水）参加者：10名
 - ・内 容：講演 『気候変動と防災気象情報』
講師 岡崎 賢治 氏（京都地方気象調査官）
- 京都府災害ボランティアセンターでの災害支援活動等：なし

（2）福祉教育の推進事業

① 市内小中学校への助成金の交付と福祉教育の推進

福祉教育の実践と将来を担う子供たちへ「福祉の心」を育むべく、各学校単位で独自取り組む福祉教育活動を支援するために助成金を交付しました。

小・中学校	各学校での主な取り組み	補助金額
松井ヶ丘	視覚障害理解、盲導犬理解、手話体験	27,000 円
大住	点字体験、しめ縄づくり、職業について学ぶ、郷土学習	40,000 円
桃園	点字体験、車いす体験、手話体験、アイマスク体験	40,000 円
薪	視覚障害理解、手話体験、車いす体験、認知症講座	40,000 円
田辺	障害児者理解	6,140 円
田辺東	視覚障害理解、聴覚障害理解、肢体障害理解、認知症講座、調べ学習(障害)	40,000 円
草内	昔遊び体験、車いす体験、認知症講座、視覚障害理解、手話体験、書籍購入	20,000 円
三山木	視覚障害理解、車いす体験、手話体験、ふれあいの里との交流、見えることの学習	40,000 円
普賢寺	ふくろう、緑の風作業所との交流、認知症講座、人権学習、標語募集(青少年問題連絡協議会と連携)	40,000 円
田辺中	手話体験、心待ち運動(福祉施設へシクラメンとクリスマスカードを贈る)	23,640 円
培良中	視覚障害理解、身体障害者理解、手話体験、車いす体験、認知症、B-flower プロジェクト、安全マップ作り	40,000 円

② 夏の社会福祉施設等体験学習の実施（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

4 市民福祉の向上と地域福祉活動の推進

（1）高齢者福祉事業

- ① 敬老会（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
- ② 白寿の方への記念品（ひざかけ）の贈呈（24名）
- ③ 市内高齢者施設への記念品（タオル）の贈呈（5施設）
贈呈施設：セピアの園、やすらぎの杜、洛南寮、つつきの郷、九十九園
- ④ ふれあい給食サービスの実施（延べ受給者：198名、総配食数：2,828食）
ひとり暮らしの高齢者及び高齢者世帯等対象に友愛訪問による給食サービスを提供しました。給食調理については、給食調理ボランティアグループ「あじさい」と市内の老人ホーム（洛南寮、セピアの園、つつきの郷、やすらぎの杜）の協力を得、配食にあたっては、配食ボランティア、民生児童委員、分会長に協力いただき、月2回、夕食として配食しました。（新規・継続申請手続き実施、新規受給期間：3/4/1～6/3/31）
- ふれあいの掲示板の発行（年8回）
- 給食サービス・ふれあい昼食会（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
- ⑤ ひとり暮らし高齢者への社会参加促進事業
- 洛南寮とのひだまりの会の開催（1回）（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため洛南寮での開催中止）
- ・開催日：令和2年12月15日（火）参加者：4名
 - ・内容：ミニサロン（干支の色紙づくり）
- ひとり暮らし高齢者等のふれあい交流会（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
- ⑥ ひとり暮らし老人の会「むつみ」の支援（会員数：56名）
- 主な活動：倶楽部活動（6、7、10、3月に時間と人数を制限して実施）、会員へのお誕生日カード送付、会報の発行、まあいいかカフェ（3/27）で活用する小物づくり（居場所づくり）について実施（3/15、26）
- ⑦ コスモス喫茶（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止・ボランティアコスモス活動休止）
- ⑧ ひとり暮らし高齢者への「ふれあいCD」の発刊
ひとり暮らしの高齢者へ朗読ボランティアサークル「せせらぎ」の協力を得て、毎月1回「せせらぎおしゃべり訪問」のCDを作成し、18名（3月末現在）に送付しました。
- ⑨ 市老人クラブ連合会とひとり暮らし老人の会「むつみ」への助成
- ⑩ 在宅ねたきり高齢者や介護者への支援
- ふとん丸洗いサービスの実施（7月～3月）
在宅で療養中の常時介護が必要な60歳以上の方を対象に快適な生活環境を保つことと介護者の負担軽減を目的に実施。
- ・利用合計数：28件
- 在宅ねたきり高齢者の介護者への情報誌「ささえ」の発刊（年2回）
介護教室や介護者の集い等の情報を掲載し、介護者132名と介護保険事業所等26ヶ所に送付しました。
- 一日リフレッシュ事業（日帰り旅行）（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
- 介護者交流会の開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止：4,5,7,8,1,2月）
介護者を対象に市保健師も交え、介護で抱える悩みや不安などについて意見交換交流会を毎月第4月曜日に実施しました。（参加延べ人数：25名）
- ⑪ 介護講座の開催（5回）

市内在住の市民を対象に介護講座を開催しました。

- 第1回：令和2年10月13日（火）受講者：5名
内容：衣服の着脱
- 第2回：令和2年11月10日（火）受講者：7名
内容：排泄などのおむつ交換
- 第3回：令和2年12月8日（火）受講者：9名
内容：ベッド上の体位変換や移乗
- 第4回：令和3年1月12日（火）受講者：7名
内容：認知症の症状と接し方（認知症サポーター養成講座）
- 第5回：令和3年3月9日（火）受講者：9名
内容：歩行介助と車いす介助及び入浴介助と食事介助

⑫ 介護の広場（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

（2）障がい者福祉事業

- ① 「障害者週間」啓発事業記念式典（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
ただし、綴喜二市二町において、障害者施設、公共施設等で啓発物品（ウエットティッシュ）による啓発活動のみ実施した。来年度も引き続き京田辺市社協が当番を担う。
- ② 障害者団体への助成と行事等への支援
 - ・助成団体：身体障害者協会、聴覚障害者協会、視覚障害者協会、難聴者協会
- ③ 買い物支援活動（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止：4～6,1,2月）
移動が困難な人を対象に月1回土か日曜日に送迎・配食ボランティア「やまびこ」の協力により買物支援を行った。（※カッコ内前年度）
 - ・利用登録者数：9名（13名）
 - ・利用者延べ数：13名（13名）
- ④ 障害者交流事業・障がい者のつどい（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
- ⑤ 京田辺市障がい者スポーツ大会・友遊フェスタ（同上）
- ⑥ 福祉に関する市民向け講座（同上）

（3）青少年児童福祉事業

- ① 子育て講演会の開催
 - ・開催日：令和2年11月18日（水）参加者：70名
 - ・講演会：講師 高崎 幸子 氏（認定NPO法人児童虐待防止協会）
演題 『子どもの気持ちを聴くポイントについて』
- ② 子育て応援セミナー（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
- ③ ひとり親家庭小学校入学児童へ祝品（図書カード）の贈呈（34世帯）
- ④ ひとり親家庭への支援
 - 親子ふれあいの集い（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
 - クリスマス会（同上）
 - 親と子どもの居場所づくり（同上）
- ⑤ 団体への助成と行事の支援（京田辺さくら及び綴喜連合母子会の助成申請なし）
- ⑥ 京田辺市子どもの主張大会（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

⑦ 児童虐待防止推進月間の街頭啓発（オレンジリボン運動）（同上）

ただし、社会福祉センターにおいて、横断幕、のぼり旗、啓発グッズを設置し啓発活動を行った。

(4) ふれあい福祉センター事業（※カッコ内前年度）

心配事や不安など日常生活で抱える様々な問題について解決の糸口を見つけられるよう常駐の相談員を配置するとともに、有識者や専門家による相談窓口を開設。

（相談内容：1位人権や法律問題、財産のこと375件、2位生計問題 366件）

① ふれあい相談室(月～金曜日の午前9時～午後4時)の開設

- ・相談件数：975件（1,054件）
- ・取扱方法：電話697件、来所278件

② 心配ごと相談所(原則毎月10日、25日 午後1時30分～午後4時)の開設

- ・相談件数：8件（18件）

③ 専門相談の開設

○弁護士相談（年10回、京都弁護士会）

- ・相談件数：48件（43件）（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止：4,5月）

○司法書士相談（年9回、京都司法書士会）

- ・相談件数：42件（34件）（同上：4,5,2月）

○税務相談（年3回、近畿税理士会宇治支部）

- ・相談件数：15件（8件）（同上：5月）

○成年後見制度相談（年10回、成年後見センター・リーガルサポート京都支部）

- ・相談件数：10件（10件）（同上：4,5月）

○これからのこと相談（年10回）

- ・相談件数：8件（3件）（同上：4,5月）

④ 相談員によるセミナーとケース検討会（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

(5) 福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）

原則毎月1回（30日）に「これからのこと相談」の窓口を開設しました。生活支援員等による支援した利用者は37名。

(6) 貸付事業

① 生活福祉資金の貸付状況

（※カッコ内前年度）

種 類	件 数	世帯数	貸 付 金 額 (円)
総合支援資金	0(2)	0(1)	0(444,000)
教育支援資金	24(17)	12(9)	9,359,000(6,108,000)
福祉資金・福祉費（生活必需品等）	4(9)	4(9)	412,000(1,055,000)
福祉資金・転宅費	3(0)	3(0)	830,000(0)
福祉資金・緊急小口資金	2(2)	2(2)	200,000(200,000)
合 計	33(30)	21(21)	10,801,000 (7,807,000)

② 生活福祉資金償還状況の報告

各地区の民児協会長、借受者担当民生委員へ報告書を提出し、滞納者については担当民生児童委員と連携して償還について検討対応しました。

③ 新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付

貸付件数：885件 貸付金額：約3億6200万円

- 緊急小口資金：422件
- 総合支援資金特例貸付（初回）：245件
- 総合支援資金特例貸付（延長貸付）：128件
- 総合支援資金特例貸付（再貸付）：90件

（受付期間：令和2年3月25日～令和3年3月31日）※令和3年4月以降も延長

5 在宅福祉・介護保険事業の推進

(1) ホームヘルプセンター事業

介護保険制度における要介護、要支援の認定を受けた方が対象となる訪問介護事業、介護予防・日常生活支援総合事業と自立認定を受けた高齢者及び支援が必要と認められた産前・産後の産婦の方に対するホームヘルプ事業と、障害者総合支援法に基づく身体障害者、知的障害者、精神障害者を対象とした障害福祉サービス事業及び移動支援事業を展開し、自立と社会参加の促進に向けたサービスの提供を行いました。

① 職員体制

センター長（サービス提供責任者兼務）1名、サービス提供責任者6名、非常勤ヘルパー19名で業務にあたりました。

② 派遣活動実績

（※カッコ内前年度）

区 分	派遣延べ回数	利用者実人数
介護保険（訪問介護）	6,228回(7,520回)	91人(96人)
介護予防・日常生活支援総合事業 （介護予防相当）	1,323回(1,608回)	30人(39人)
障害福祉サービス（居宅介護）	1,055回(1,011回)	13人(14人)
障害福祉サービス（重度訪問介護）	0回(0回)	0人(0人)
高齢者生活支援ヘルパー派遣事業（市委託）	0回(18回)	0人(2人)
産前産後ヘルパー派遣事業（市委託）	203回(145回)	15人(14人)
生活サポート事業（市委託）	0回(23回)	0人(2人)
移動支援事業（市委託）	104回(134回)	5人(7人)
介護保険外サービス	48回(62回)	5人(7人)

③ 会議及び研修の実施

利用者の状況やサービスの内容などの確認や検討及びヘルパー間で情報が共有できるよう常勤、非常勤職員による合同会議を月1回行いました。また、認知症や接遇など利用者への適切な対応がはかれるよう研修を行いました。

- ④ ヘルパーの健康管理事業等
 - ・健康診断の実施
 - ・インフルエンザ予防ワクチン接種に対する補助
- ⑤ 保険制度等への加入

福祉事業者総合保障制度（傷害保険、賠償責任保険）ならびに労災保険への加入

(2) デイサービス事業

要介護、要支援の認定を受けた方が対象となる地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業等のサービスを提供。

① 職員の配置

センター長1名（常勤・介護職員兼務）、介護職員8名（常勤1名、非常勤7名、内3名生活相談員兼務）、機能訓練指導員2名（常勤1名、非常勤1名看護職員兼務）、看護職員3名（非常勤、内1名機能訓練指導員兼務）、運転職員1名（非常勤）を配置し業務にあたりました。（実人数14名）

② 事業実績

（※カッコ内前年度）

区 分	延べ利用回数	利用者実人数
介護保険（地域密着型通所介護）	2,951回（2,794回）	43人（52人）
介護予防・日常生活支援総合事業（介護予防相当）	410回（335回）	6人（6人）

③ サービス内容

個別機能訓練、レクリエーション、生活相談、健康チェック、健康指導、入浴、昼食、送迎等の各サービスの提供、個別通所介護計画の作成（昼食の調理は、セピアの園に委託）

④ 運営推進会議の開催（2回）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、議事資料を配布し、意見等を諮ることで実施しました。

⑤ 事業実施の調整及び研修の受講等

利用者の健康状態や情報の共有、デイサービスの運営など職員間で意見交換を図るため月1回職員会議を実施しました。

(3) 居宅介護支援事業

介護保険事業における居宅介護支援事業者として、ケアプランの作成、介護保険サービス事業所や関係機関との連絡調整等、要介護認定に伴う訪問調査を実施。

① 職員の配置

センター長1名（主任介護支援専門員）のもとに、介護支援専門員（ケアマネジャー）を5名（介護福祉士4名、保健師1名）で業務にあたりました。

② 事業実績

（※カッコ内前年度）

区 分	給付管理月平均、実利用者等
介護保険（居宅介護支援）	給付管理月平均：165件（166件）

介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント(市委託)	実利用者数：4人(5人)
要介護認定訪問調査(市委託)	訪問調査件数：43件(86件)

(4) 地域窓口相談事業

相談員1名配置し、要援護者、介護者等の在宅介護に関する総合的な相談にも応じるとともに、相談ニーズに応じた各種の福祉、サービスが総合的に受けられるよう市地域包括支援センター、介護保険サービス事業所等との連絡や調整等を行いました。

① 相談事業実績(※カッコ内前年度)

(相談内容)

・介護保険認定関係	14件(8件)
・在宅サービス関係(住改・福祉用具以外)	3件(2件)
・介護保険住宅改修・福祉用具関係	27件(40件)
・施設入所関係	11件(4件)
・認知症及び精神保健相談	1件(1件)
・高齢者福祉サービスにかかる相談	1件(3件)
・医療、健康にかかる相談	3件(3件)
・介護者(家族)の健康にかかる相談	2件(0件)
・その他	1件(1件)

相談延べ件数：63件(62件)

(5) おたっしや応援事業

市内在住の65歳以上の高齢者を対象に外出する機会や気力が薄れ、体力的にも不安で家にこもりがちの方、交友関係やコミュニケーションをはかりたい方をはじめとして、高齢者が心身ともに元気で健やかに過ごせるよう、介護予防を目的とした内容(血圧測定や健康相談、体操やモノづくりなど)で実施。運営にあたっては、社協地域役員をはじめ区・自治会や民生児童委員、老人会などの協力をいただきました。

① 実施地域：6地域(14地域)(※カッコ内前年度)

田辺、府宮団地、草内、飯岡、多々羅、同志社住宅

② 実施回数：27回(78回)

③ 参加延べ人数：383人(1,411人)

(6) 認知症サポーター養成講座

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めるために認知症について、正しい知識や対応についての講座を実施。

① 一般講座(1回)

・開催日：令和3年1月12日(火) 受講者：7名

② 小中学校(7校) 受講者：565名

(7) 毎日型有料配食サービス(社協のばんごはん)事業

食事の準備等が困難な高齢者や障害者を対象に、食生活の向上と安否確認することを目

的に、夕食を提供。サービス希望者は、会員として登録して、夕食の配食希望日（月曜日～土曜日の内1日以上）と調理方法（一般食、一口食、きざみ食）を選択の上、調理業者が指定日に配食。（調理配食委託業者：城南給食センター）

① 事業実績（※カッコ内前年度）

- ・登録会員数：50名（48名）
- ・総配食数：6,524食（5,646食）

② 利用料等

年会費1,000円、480円/食（生活保護受給者は380円/食）を徴収。